

学校評価特集号

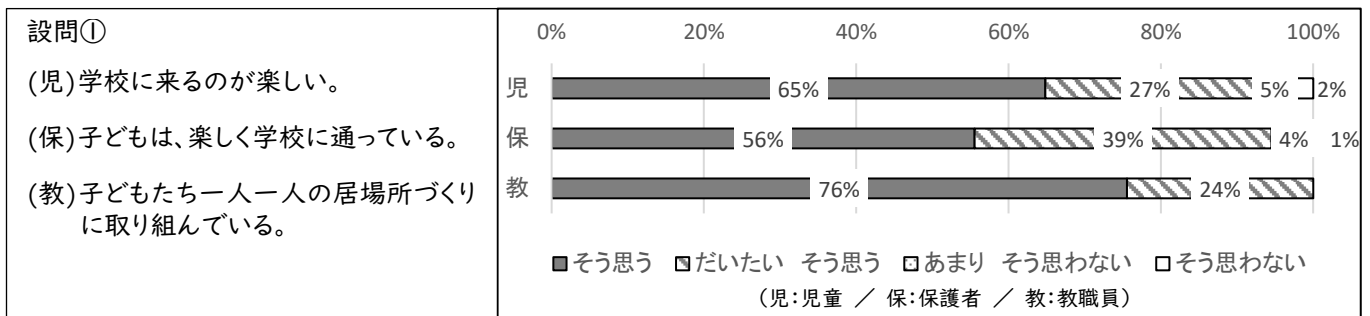
令和6年10月18日

京都市立岩倉南小学校

校長 石田 和三

平素より、本校の教育活動に多大なご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

6月末から7月にかけて行いましたみなみアンケートにご協力いただきありがとうございました。この「学校評価特集号」では、「みなみアンケート」の結果とそれをもとにした振り返りをお伝えします。よいところも課題も含めて、保護者や地域の皆様と共有することで、よりよい学校づくりにつなげていきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



アンケートでは、はじめに「学校に来るのが楽しい」かどうかを尋ねています。

児童、保護者のどちらの結果からも、「学校が楽しい」と感じている子が多いということがわかります。子どもが毎日楽しく通え、そして満足して下校できるように日々取組を進めています。一定、その効果が表れていることは大変うれしく思います。

しかし、児童、保護者のどちらの結果からも、「学校が楽しい」と感じていない子もいることがわかります。わたしたちの取組が、すべての子どもたちに届いているわけではないことを肝に銘じて、どの子も「楽しい」と感じるができる学校づくりを目指していきます。

自由記述欄にも様々なご意見をいただきました。

「初めは緊張していた子どもも、すっかり慣れ、毎日学校の様子を話してくれます。」「友達との人間関係に悩んだ時期もありましたが、悩みながら成長している様子がうかがえます。」「担任の先生や周りの友達に支えてもらいながら今後たくさんのことを学びたいと思います。」「担任の先生には、いつも寄り添っていただき感謝しています。助けてもらったり、導いてもらったりありがとうございます。」「一生懸命はかっこいい。この言葉がよくて家でもよく使っています。」などの声もあれば、その反対の声もあります。そのどちらの声も受け止めて、子どもたちにとって安心できる学校づくりをこれからも目指していきたいと思います。

また授業や日々の取組についてもいくつかご意見をいただいています。

「正しく字を書くことはもちろん、正しい鉛筆の持ち方や姿勢は最初に教えるだけでなく、継続的に声をかけてほしい。」「授業の内容が子どもたちにあっていない。もう少しスピードを上げてほしいのではないか。」「課外活動を増やして、五感を使った学習を増やしてほしい。」「縦割り活動を他学年の児童と関わるができるのは、とてもよいと思います。」「高学年になり、生活全般からノートのまとめ方、宿題に至るまで様々な場面で自主性を活かす形に変わってきていると感じます。」

昨年度に引き続き、今年度も各学年様々な場面で、校外に出たり、外部講師の方に来ていただいたりしながら体験を通した学びを取り入れています。配布されている1人1台端末も子どもたちは、効果的に活用できるようになってきました。主体的に児童が学習に臨めるよう、学習の出会いや、進度も含めてこれからも工夫を続けていきたいと思います。

また、「交通ルールを守れていない。」「立ち番ボランティアを行っているが、子どもが急に飛び出してヒヤッとする場面が何度かあった。」という意見もありました。大人数での登下校です。学校でも常日頃から指導を続けていきますが、ご家庭でも、安全に登下校できるようにお話いただけるとありがたいです。

「徳」～「思いやり、たがいの良さを認め合う子」の育成に関して～

設問②

(児) 友だちのよいところを見つけている。
(保) 子どもは、友だちのよいところを見つけている。
(教) 子どもたち一人ひとりのよさを見つけ、認め、ほめ、伸ばしている。

設問③

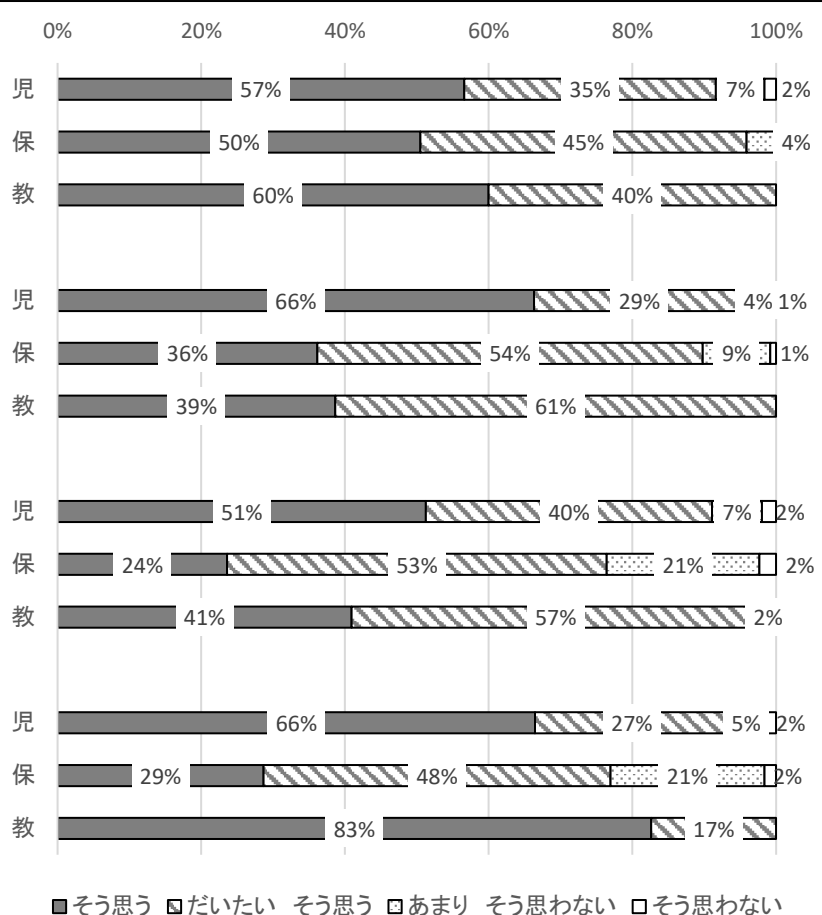
(児) 自分もみんなも楽しく過ごせるようにしている。
(保) 子どもは、毎日楽しく学校生活が送れるように、自ら工夫して活動している。
(教) その子のよさが、その子のためにもみんなのためにも活かされるような場や機会をつくっている。

設問④

(児) 学級目標や児童会の月目標を意識して活動している。
(保) 子どもは、自分で決めた目標を意識した生活を送っている。
(教) 学級目標や児童会の月目標を意識した教育活動を行っている。

設問⑤

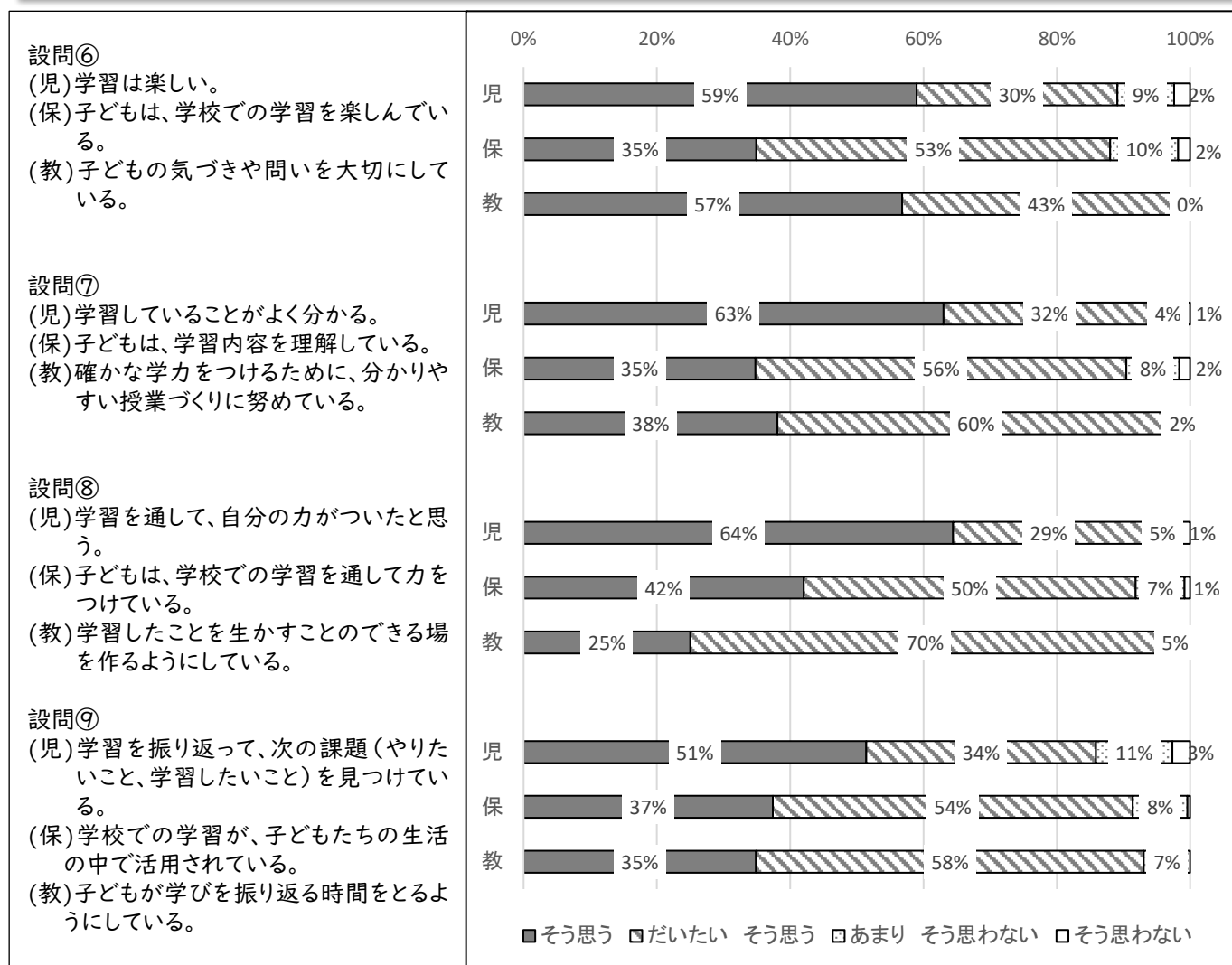
(児) 自分から挨拶をしている。
(保) 子どもは、自分から挨拶をしている。
(教) 自分から挨拶をしている。



(児:児童 / 保:保護者 / 教:教職員)

- ② 2学期の始めには、各クラス夏休みの思い出ビンゴをしたり、椅子をサークルの形にして夏休みの作品を交流し、良さをを見つけ合ったりしました。学習の中でも、友だちと意見を交流することを大切にしています。自分だけではなく周りの人の良いところを見つけられる子どもは、きっと家庭や学校でも自分の良さを認めてもらっている機会も多いと思います。子ども自身が本当に認めてもらいたいときに的確に認められるようにしっかりと一人一人を見ていきたいと思っています。
- ③ 7割近くの子が、「そう思う」と答えています。自分のことはもちろんのこと、周りの人のことも考えて行動しようとしていることを、嬉しく思います。クラスの中では、学年や発達段階に応じて、係活動など子どもたちが、自主的に主体的にクラスの雰囲気をよくしようと活動をしています。たてわり活動や、みんなの日の取組など学年を超えての活動も昨年度より増えています。6年生は、1年生に掃除の仕方を教えたり、パソコンの使い方を教えに行ったりしました。そのお礼に1年生は、6年生にお手紙を書きます。自分の行動が誰かの役に立っているということを実感できるような機会になっていると思います。
- ④ 1か月に1回行っている「いわみなサミット」では、計画委員、各クラスの代表委員、各委員会の委員長が集まり、学校の課題について話し合い、学校をよりよくするための目標を考え、全学年に発信する取組を行っています。昨年度の反省から今年度は、振り返りにも力を入れています。目標を決めるだけで終わらず、自分がどれだけできたか、さらに何を頑張っていきたいかを考えられるようにしていきたいと思っています。
- ⑤ 昨年度同様、児童の結果と保護者の結果の差が開きがあったのがこの項目です。子どもは66%ができていると思っているのに対し、保護者は29%にとどまっています。学校では、大人が挨拶するとほとんどの子どもは、挨拶を返してくれますが、自分から挨拶できているかとなると、この結果になるのかもしれませんが。ただ「挨拶をしなさい。」だけでなく、挨拶をする意味についても考えられるようにしていきたいと思っています。

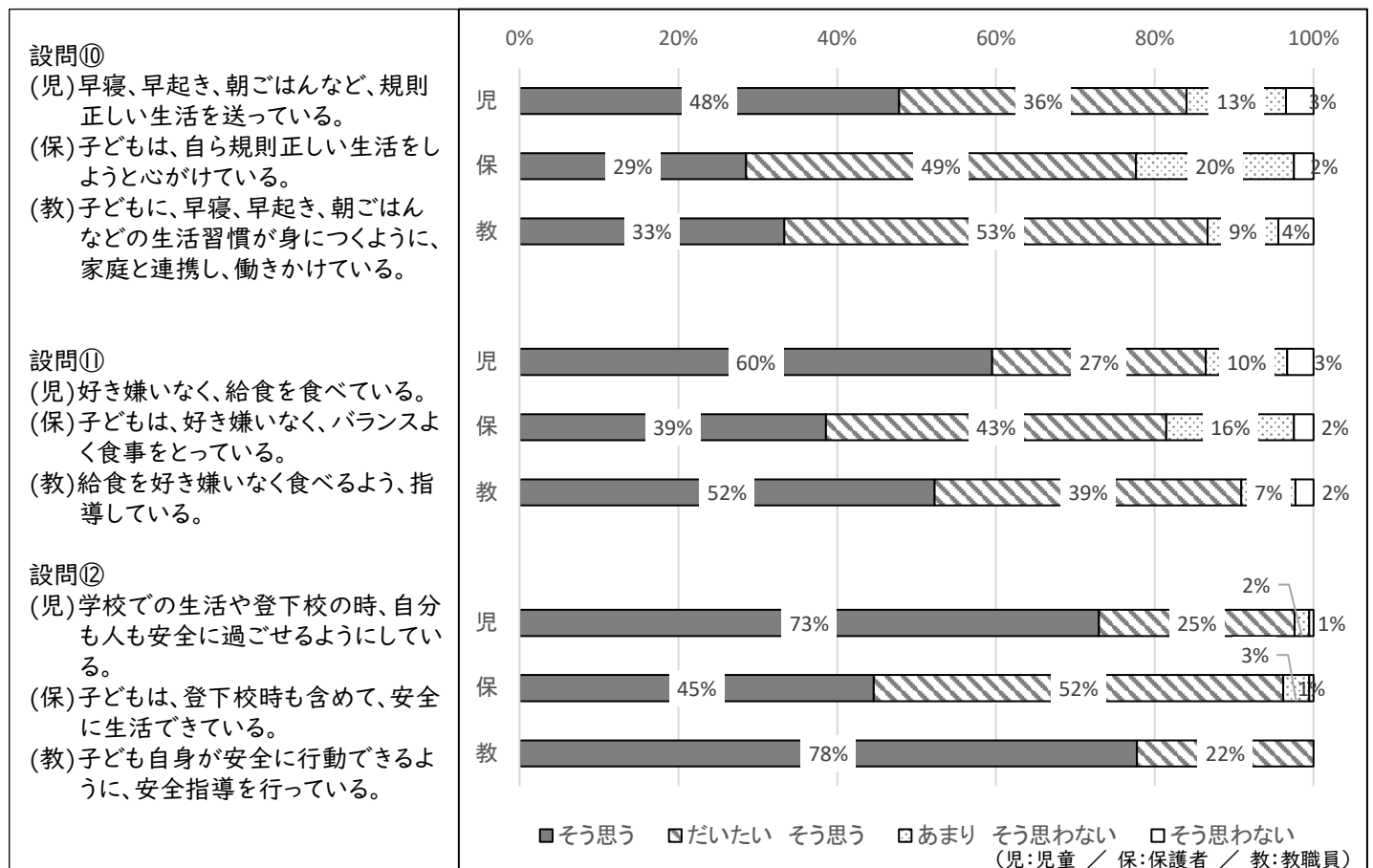
「知」～「自分で考え、行動する子」の育成に関して～



(児:児童 / 保:保護者 / 教:教職員)

昨年度から大きく項目を変更しました。

- ⑥ 昨年度の6年生に対する学力学習状況調査の質問紙調査の結果からも、学校に行くのが楽しい、学習が楽しいと答えている児童は、国語、算数共に正答率が高いという結果が出ています。今年度は、子どもたちのやってみたい、知りたいという思いから学習が進められるように、学習の入り方も工夫しています。体験や自分の身近なところからの導入を工夫することで、楽しみながら学習に向かえる子どもたちを増やしていきたいと思います。
- ⑦ 6年生対象の学力調査や456年対象のジョイントプログラムの結果は、国語算数共に、全市の平均点を大きく上回っています。ただ、どのような学習方法が一番定着するのか、子ども一人一人によっても違います。すべての子どもたちが「分かった!」「できるようになった!」という達成感や喜びを感じられるように、様々な学習方法を探りながら進めていきたいと思います。またGIGA端末を持ち帰った際には、ロイロノートやTeamsをご覧いただき、子どもたちの学習の様子もご確認いただければと思います。
- ⑧ 学習したことを活かせる場面が学習や普段の生活の中にないと、力がついているということを実感することはできないと思います。学習を単元ごとに区切って考えるのではなく、単元同士の繋がりを意識しながら学習を進めていかなければいけないと感じます。また学習だけでなく、行事などを通して子どもたちの成長を実感できる場をたくさん作っていききたいと思います。
- ⑨ 振り返りはとても大切にしています。自分がこの1時間の学習でできるようになったことは何か、どんなことを考えたのかを学習の足跡として残していくようにしています。アンケートの回答では、まだまだ意識できていない結果となっていますので、学習したことを次への活動や普段の生活に繋げることを意識しながら、学習だけでなく行事にも取り組んでいきたいと思います。



- ⑩ 昨年度の全国調査では、「朝ご飯を毎日食べていますか」という問いと各教科の正答率の間に相関関係（質問に対する回答が肯定的であるほど、正答率が高い関係）が小・中学生ともに見られました。普段の生活習慣が、様々なところに関係していることが分かります。ここでの3つのすべての項目に当てはまりますが、なぜそうした方がよいのかということをしかりと理解し、自らできるように学校でも働きかけていこうと思います。ご家庭でも毎月発行の保健室からのおたよりや長期休み明けの「げんきもりもりカレンダー」を積極的に活用いただき、規則正しい生活の重要性についてお話しください。
- ⑪ 学校では、1食の給食に関わってくださっている方に感謝の気持ちをもつことや、食材について知ること、給食時間が楽しい雰囲気になることが、苦手なものでも少しでも食べてみようという意欲につながるのではないかと考え、給食だよりや毎日の給食カレンダーで食についての情報を発信しています。また栄養教諭による食の指導では、学校給食だけでなく日頃の食生活を振り返ることで、自分で課題を発見して普段の生活に生かせるようにしています。「嫌いなものでも食べなさい。」ではなく、子ども自身が「ちょっとでも食べてみようかな。」という思いをもてるように取組を続けていきたいと思っています。
- ⑫ 子どもと保護者の回答に開きがありました。子どもたちは、安全に歩いているつもりでも周りから見ているとそうではないこともあります。朝の立ち番ボランティアの方から、急に子どもが飛び出してヒヤッとしたということも聞きました。校内では、廊下を走っている姿もまだ見られます。自分も周りも安全に過ごすためにはどうすればよいのかということを学校でも指導していきたいと思っています。ご家庭や地域でも危ない姿が見られましたら声をかけていただけるとありがたいです。

この特集号の発行に先立ち、学校運営協議会理事会を開催しました。理事の方からは、「学年を超えての関わりが増えている。」「学校に来るのが楽しいと答えている児童が多いことがすばらしい。」という意見をいただきました。子どもを真ん中に置いて、子どもたちのために、地域、保護者、学校が協力し合いながら、取組を進めていきたいという話もしていただきました。

引き続き、本校教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。